

芥川だより

発行日 * 2025年4月1日 e-mail: ab_87968624@yahoo.co.jp

最新号から創刊号まで閲覧できます。 <http://akutagawadayori.sakura.ne.jp/>

編集

川口 伸

発行 人

下村嘉明

〒661-0951

尼崎市田能5-3-10-601

☎090-8796-8624

***** 一部200円です *****

トランプ革命の真髄とは？



結論から書けば、これまで一般庶民が旧家の貴族文化である貴族政治によって疎外され搾取され続けられてきた世界の支配構造の破壊である。軍拡はやまず戦争が絶えない人類の未来を変えるには、世界連邦共和国のように国を超えた地球組織を作り宗教・国家・核・環境破壊などこれまでどうすることも出来なかった問題を無力化し消滅させることで人類の未来を開く。

ロシアのウクライナ侵略は、解決策が見えない。下手をすれば核戦争になる。福島原発の処理ですら先が見えない。もし世界中の核弾頭が飛びかえば1日で地球は核物質で覆われ放射能汚染で人類は生きられない。今の世界状況では、いずれ人類破滅の世界戦争が起きる。これを阻止し核を除去するためには、国を超えた機関を作り核兵器を世界連邦軍が一括管理し破棄を進める。

山奥の育ちのためか、いまだに都会で生活していても疎外感を感じる。私だけの性癖かと考えていたが、トランプも同じような疎外感を持っていたのだ。彼を支援する多くの国民も似たような感情を持っていたに違いない。自分たちが生きている世界から疎外されているという想いは私だけの感情では無かったのだ。裕福に貴族的な生活に浸れる人は一部である。一部の人が多くの人々を支配するために民主主義を考えだし、また、多くの貧しい人々の不満を和らげるために自由という虹を描いて見せたのだ。

トランプとプーチン大統領が手を組み習近平をも巻き込み世界連邦設立会議がひらかれるだろう。一見すると世界が混乱し不安が増し世界経済が混迷するが、しばらくすれば落ち着き競争社会は消えているだろう。維持費の膨大なものは姿を消し、人が生きていける最低限度の世界だ。これまでの世界の文化や風習の多くは消えてなくなる。馬鹿騒ぎするマスコミの姿もない、誰もが社会から疎外されていないと感じる社会だ。我々が永年抱えてきた夢が実現するかもしれないチャンスが目の前にトランプ革命という姿で現れた、これがトランプの真髄だ。

死をめぐるあれやこれ(124)

石川 吾郎

トランプは消費税に反対する

自らを関税男と呼ぶトランプ米大統領は、日本などの消費税をなくすべきであるという主旨のコメントをSNSに投稿したという。トランプが日本の庶民の味方をしているのかと一瞬思うが、そんなわけはない。消費税が国際的に禁止されている輸出補助金に相当しているというのだ。この主張はにわかには理解しがたいのだが、調べてみるとこれは事実だった。◆というのもトヨタなどの輸出企業には「輸出還付金」(輸出戻し税とも)が国から支払われる。これは国(税務署)が輸出企業に支払うものでこれは巨額に昇る。また法人税の減税もあり、十数年ほど前に当時のトヨタ社長の豊田章男氏が、これまでの数年間トヨタは税金をはらっていなかったがこのほど税金を支払い社会に貢献できた、といった主旨のことを言って世間を驚かせたことがあった。つまりわが国トップの企業が何年かにわたって法人税を払わずに還付金だけを合法的にゲットしていたということだ。このカラクリが法人税の減税とともに「輸出還付金」の存在だ。◆この正体は、国内での資材などの調達には消費税がかかるが輸出の際には消費税を上乗せできないので、消費税分が国から払い戻される。令和七年の概算では四三兆円あまりの消費税収のうち十二兆円弱の莫大な金額が還付金にまわるという。本来の目的・社会保障には七

割ばかりしか使われない。しかも消費税の使用の明細は発表されない。これらのことは二月の衆院予算委員会に取り上げられた。◆還付金は負担を同様に背負っている下請け企業にも還元されるべきだが、現実には立場的に強い最終的な輸出企業がこの金額を独り占めしているという。従ってトヨタなど輸出大企業は輸出すればするほど、多額の還付金を得ることができる。このようなカラクリを知っているトランプが、消費税を輸出補助金に相当すると主張しているのだ。◆大企業の集まりである経団連が消費税増税を常に主張するのもこのようなカラクリの存在であり、そもそも消費税が作られたのも、この還付金が目的であったといわれる。物価高に苦しむ国民からむしり取られる消費税がこのように大企業に流れる仕組みは、もともとと知られるべきだ。

芥川だより二九号 目次

巻頭エッセイ	下村嘉明	1
巻頭コラム124	石川吾郎	1
素老人☆よもだ帳 133	坂本一光	2
大峰奥駈道 89	下村嘉明	4
ボケ老人の雑話 12	明石幸次郎	5
オクラの山たより 103	因了生	5
隠された歴史 78	満田正賢	10
俳句	影山武司	12
編集後記	SK生	12
ふみの道草 82	山椒魚	13

素老人☆よもだ帳 (133)

坂本一光

◆太陽を塊にする芋の知恵、あるいは、方円に従う水にある不屈、あるいは、本当に神がつくったヒトなのか
― 近江の農夫だより (その2)

(5) 近江の農夫様／2024年8月
「無沙汰をお詫びし、季節のあいさつをお送りいたします。」

飛んでもない夏です。いかがお過ごしでしょうか。地球は太陽が宇宙に向かって放つエネルギーの2億分の1を受けて取っていること(単純な幾何学的計算です。太陽と地球の距離1億5千万kmと地球の半径6,300 kmから分かります)、それは地球の大気圏外では1平米あたり1.4キロワット弱であり(人工衛星による実測値、太陽定数という)、地上にはその半分ほどが届くらしいということを思い出しました。緯度を考えると日本で1平方五百ワット位でしょうか。冬の寒さには有難いですが、夏の暑さに役地獄の灼熱と言うことですね。川柳に嵌って、575より長い思考ができません。最近一番感動したことを書いた長文も添付しました。

(Be Water, My Friends) ふみの道草 (57) (『芥川だより』2023年3月1日号) No. 194)

残暑お見舞いを申しあげます。

ガジュマルの花が咲いた

いい爺さんいい婆さんに会いたいね

一平米五百ワットの日の光

沸騰する地球に生きてざまはない
何というざままだ飛んでもない夏だ

さらに。飛んでもない川柳を送ります。
おつき合ください。

本当に地球はまるい星ですか
大国は天動説をまだ捨てず

戦争も平和も死語とまだならず
本当の夏のトマトに出会えない
本当は赤が一番美しい

(6) 近江の農夫より

改めてお礼メールを差し上げますが、取りいそぎ貴信拝受をお知らせしてお礼を申し上げます。

追伸 一昨日28日の日向灘沖地震のお見舞いを申し上げます。マグニチュード7.1は、エネルギーに換算すると、2,820兆ジュールです。このエネルギーで海水温がどれくらい上昇するのか、これから計算します。地殻の活動期は海水温が上昇する、これが地球温暖化の一因だと思っています。もともと、ミサイルの撃ち合いも気温を上げますねえ。

$\log E = 4.8 + 1.5M$

いいで、E(ジュール)、M(マグニチュード)です。海水の比熱と総量は目下資料を収集中です。

(7) 近江の農夫より

暑さを見舞って下さり、有り難うございました。名文で綴られたブルース・リーの伝記にも触れさせて頂き、併せてお礼を申し上げます。このところ、哲学の素養を銜学的に披露する人が多いようですが、自分自身の哲学を作り上げた人が語る言葉は一つ一つが重たいし、魅力的です。私、この農夫は哲学なるものも持ち合わせていませんが、幸いなことに農林



京都府立植物園にて

水産業に興味があつて、畑、森、河川の近く身を置いて、時々人間なるものを見つめ返しています。人間は、神様の試作品ですねえ。

先日の日向灘沖の地震は、M 7.1 の規模でした。発生場所が南海トラフ巨大地震の震源域に入っていましたので、現在も注意報が継続発令中です。今 8/15 朝方は、大阪の一部地域で大規模停電がありました。冷凍庫、冷蔵庫を頼らねば過いせない夏の暑さですが、災害に脆弱な現代文明が生活の基盤になっていると、気持ちの上では冷や冷やものですねえ。当家は（親類縁者の襲来に備えて）、大・中・ミニの冷蔵庫と冷凍庫を（仕方なく）稼働させて居ますが、この備えは災害に対して何の対策にもなりません。電気に頼らない食料備蓄法を懸命に模索しています。

常温、長期、旨味維持・増進が食品保存の理想です。お前さん独りだけ生き延びるのかという周りの誹りもありますが、新しい備蓄法を見つける事は大勢の人の救済になりますねえ。ま、しかし、この研究が役に立たないことも、願っています。太陽から地球が受けるエネルギーについて伺いました。数値の大小もさることながら、これほどまでにエネルギーが精細に自然調整されていることに改めて驚かせられました。

地震のエネルギーが海水温をどれくらい高めるか、7.1 M 地震で計算してみま

した。この地震 1 つで、地球上の海水全量の温度は 4.9×10^{10} (乗) 上がります。上付表示で指数が表せないので読みにくいですが、

$0.0000000001^{\circ}\text{C}$ 上がります。小さい様ですが、他にも火山噴火や海底の地滑り地震もありますから、地球の活動期には海水温が上がる可能性は小さくないと思つて居ます。計算過程をここに添付します。桁数を間違つと、海水は直ぐに沸点に達しますから、要心がいらいますねえ。野良の節句働きの言葉で縛られていますので、農夫は沢山作業が残つていても、盆と正月と村祭りの期間は屋内で過こします。この掟を破ると、村八分になるので。この続きはまた近いうちに。

●地震による海水温上昇

【地震の規模 (M は、マグニチュード) とエネルギー (J は、ジュール) との関係】

$$\log_{10} E = 4.8 + 1.5 M$$

例えば、M = 7.1 では

$$E = 2.82 \times 10^{15} \text{ 乗 } J = 2820 \text{ 兆 } \text{ ジュール}$$

ジュール

【海水の総容量】

$$\text{①面積: } 361.059 \times 10^6 \text{ (乗) 平方 km}$$

$$= 361 \times 10^6 \text{ (乗)} \times 10^{10} \text{ (乗)}$$

平方 cm

$$\text{②平均水深: } 3795 \text{ m}$$

$$= 3.795 \times 10^3 \text{ (乗)} \times 10^2 \text{ (乗) cm}$$

$$\text{③総容量: } 3.61 \times 10^{22} \text{ (乗)} \times 10^{10} \text{ (乗)}$$

$$\begin{aligned} & \times 10^{10} \text{ (乗)} \times 3.8 \times 10^3 \text{ (乗)} \times 10^2 \text{ (乗)} \\ & = 3.61 \times 3.8 \times 10^{2+6+10+3+2} \text{ (乗)} \\ & = 13.7 \times 10^{23} \text{ (乗)} \text{ 立方 cm} \end{aligned}$$

【カロリーとジュールの関係】

$$1 \text{ cal} = 4.2 J$$

【海水の比熱】

$$1 \text{ cal} / (\text{g} \cdot ^{\circ}\text{C})$$

【地震による海水温上昇】

$$\text{エネルギー (cal)} \div \text{海水量 (立方 cm)}$$

$$= 6.71 \times 10^{14} \text{ (乗) cal} / 3.7 \times 10^{23} \text{ (乗)}$$

$$\text{立方 cm} = 6.71 / 3.7 \times 10^{14-23}$$

$$\text{(乗)} = 4.9 \times 10^{-10} \text{ (乗)} ^{\circ}\text{C}$$

(8) 近江の農夫様／2024 年 8 月 18 日

「返信をいただきました。

ありがとうございます。

コメント中の一言「人間は神様の試作品ですね」を読み、その感性にはっとしました。

同時に思ったのは、これは川柳だということ。5・7・5 に区切れませんが 17 音字の川柳にすると、

人間という神様の試作品

この川柳、勝手ですが九州地方の文学賞に応募します。佳作・秀逸・特選のレベルがあり、私が選者なら時代を詠む時事川柳として特選に選びますね。ちなみに、一昨年に特選になった私の句は、

人間がつくつた道を来るいくさ

ウクライナに侵攻するロシアの軍用車両

の延々と続く車列の映像を見ての句です。何かを見て、読んで、電磁誘導の様に句が生まれることがよくあります。

画家の友人が、「今朝はお日さまに布団を干し終わって、ああこれが平和だなあと思つた」と手紙に書いていました。

誘導句は、

お日さまに布団を干している平和

何でも川柳に詠むことができるのですが、理屈っぽい川柳ばかり詠んでいる私には、いわゆる実感句がなかなかできません。

というか、実感に欠ける暮らしをしている気がしてなりません。それゆえでしょう、人様の実感に触れて電磁誘導されることがしょっちゅうです。

地震のエネルギーと海水温の上昇のことは、次に『芥川だより』に書いてみようと思います。これも電磁誘導です。ありがとうございます。

(9) 近江の農夫より

気楽にお目通し下さい。態々の返信、ご無用です。

貴信、嬉しく拝読しました。この老農夫の与太話を丁寧を受け止めて下さり、有り難うございました。お礼を申し上げます。

昨 8/19 宵からの雨で、畑も庭も潤いました。自家菜園の野菜が強い日射で焼け始めまして、すわーっ、こりや大飢饉だと先を案じました。今 8/20 日、畑の水撒きからも開放されましたので、落ち着い

た気持ちで次の事に取り組みます。お教え願いたいことも含まれています。急ぎませんので、思いつかれたらよろしくお願いします。

その一…地震のエネルギーで、地球上の海水温がどれくらい上昇するのかを計算しています。地震の規模マグニチュード (M)とその時放出されるエネルギー (E、ジュール) は次の関係にあります。 $\log_{10} E = 4.8 + 1.5 M$ 。先日の日向沖地震は $M = 7.1$ でしたから、放出されるエネルギーは $E = 2.82 \times 10^{15}$ (の15乗) ジュール、東日本大震災は $E = 2.00 \times 10^{18}$ (の18乗) ジュールです。これらをcalに換算して、海水総量で除すことになり、桁数を誤ると、直ぐに海水が沸騰しますので、慎重に進めます。なお、海水総量は、平均水深 3795 m、面積 361.1×10^6 (の6乗) 平方キロメートルだそうです。要するに、近年の温暖化は地殻変動から放出される熱が関与しているという予感です。尤も、恩師のお言葉を思い出しますに、「温暖化の原因を人間活動による二酸化炭素だとしておかないと、人間は際限なく化石燃料を使うからねえ」があります。

その二…以前、軽量化を図るために開発されたリチウム電池が重宝されているとお知らせしました。これとは反対に、幾ら重くてもいいので電池から有害物が漏れ出ない、或いは漏れ出ても住環境に害がない電池を、各家庭の地下に埋めた

いのです。電極材料は炭素、電解液は食塩、復極剤 $Fe(O, II, III)$ または $Mn(O, II, IV, VII)$ を選びたいです。ところが、この農夫は電池の原理に弱くて、理解できる範囲はボルタ、ダニエル、鉛の各電池です。リチウム電池などについて、その仕組みがわかりやすく解説されているものがあつたら教えて下さい。隔膜を使うと燃料電池が可能になるというのも、その基礎が解って居ないのです。

畑の薩摩芋や里芋、山芋を見ていますと、それぞれに上手く発電装置(葉)と蓄電装置(芋)が仕組まれています。各家庭に安全な蓄電池を地下埋設すれば、(仮に家屋が押し流されても土壌汚染は起こらないし) 原発の再稼働も起こさなくて済むと思っています。ま、しかし、将来、この発電・蓄電装置に人間が成功しても、神様がお作りになった芋システムに越えることはないですね。それにしても、澱粉(化学エネルギー)と電気(物理エネルギー)の本質的な相違は何なんでしょうかねえ、可逆性・不可逆性ですかねえ。

この農夫、生来話好きで吞兵衛なんです、が、連れ合いから酔老夜独歩が厳禁されているのです。そんな事情にて、仲間との意見交換が少なくなりました。メール交信になりますが、脳のリハビリ剤を送って下さい。

お礼メールが長くなりました。お詫びします。

(10) 近江の農夫様／2024年8月20日

わざわざではありません。吉野さんがリチウムイオン電池のことでノーベル化学賞を受賞したあと、少し調べてまとめた資料がありますので添付しました。このことについて貴兄のコメントをいただき、『日本の科学者』(読者の声) に紹介した時です。暇な折にお目通し下さい。私はこの時ようやく、リチウム電池とは異なるリチウムイオン電池の仕組みを理解した気になりました。同様の資料を前に見ていただいているような気がしますを送りました。取り急ぎ。

(リチウムイオン電池のしくみ『素老人よもだ帳(70)、『芥川だより』(2020年10月1日号) No.166』

(11) 近江の農夫より

早速に、貴重な資料を頂きました。貴兄の解説記事「よもだ帳」がわかりやすかったです。恥ずかしながら、不覚にも、リチウム電池とリチウムイオン電池の区別が出来てなかったです。リチウムイオンの取り込みと放出で電極剤が充放電しているとは、面白いです。この原理を延長して、薩摩芋電池が可能かどうか考えて見ます。それにしても、電極剤の構造変化が酸化還元に反映される(その逆も)ことに気が付いたのは素晴らしいですね。タンパク質やセルロースなどの天然

高分子が小イオンを包摂する現象なども芋電池には取り込みたいと思っています。今般頂戴した資料、これからじっくりゆつくり、何度も読み返して、研究者の知恵の働かせどころを感じとりたいと思います。この意味でも、化学歴史に通じることは大事ですねえ。先人の知恵が、深化や変化を伴いつつ、継代的に世の中に拡がって居ます。この続きはまた近いうちに。取り急ぎメール拝受のお礼まで申し上げます。

(かたちは心であり、心はかたちになる■大分の素老人)

大峯奥駈道(89)

体験型人間学 39 下村 嘉明

世の中は広い・Yさん

西宮の山手の剣谷町の排水管の工事現場での事である。工事が4時半ごろに終わり、帰り支度をした時に、ひとりが「先に行ってくれ、わしはゆつくり行くから」と言うので、入りたてという新人のYと急な道路を歩き出した。80才だという

彼は、歩き出してまもなく「もし、バスが行った後なら駅まで歩きましょうか」と言い出した。私もつられて「ああいいよ」と言ってしまった。Yさんは速足で歩き出した。10分ばかり急坂を下ってバス停に着くと、バスが行ってしまった後だった。次のバスまで40分はある。約東通り阪急の甲陽園の駅を目指して歩く、歩きながら彼に話を聞く。

80にして早く歩き続けられるとは意外だったから、根掘り葉掘り聞く。毎日どれぐらい歩くのか、彼曰く休みの時などは、一日中歩き回っているらしい。何か興味のありそうな、たとえばマンホール蓋の写真を撮りながら歩くといった具合である。半分走るような調子で休まずに歩いて20分で駅に着いた。次号につづく

ボケ老人の雑記(その12)

明石 幸次郎

健康寿命を過ぎて、同年代の友人二人が痴呆になったり、足が悪くなり余り歩けなくなり外に出なくなったりした奴とか、癌ですでに亡くなった友人も何人かいます。いつ私もボケが真性? 痴呆に

なったり、癌と診断をされたり、余命は何年位ですと言われるたりするの分かりません。

最悪、癌を宣告されても、じたばたせずに、悔いのないように生きたいもので、今からやりたいこと、やらねばならないことを、又と先延ばしをせずに、思いついたら実行せねばと思います。

人は誰しもがそれぞれの「生の欲望」をもっています。この欲望は優秀欲、支配欲、権勢欲、食欲、色欲、金欲、名誉欲、達成欲などがありますが、それは年齢によつて欲の強さ、加減が違つてきます。私のような高齢者と呼ばれる歳になると身体共に老化して、段々とこれらの「生の欲望」が薄らいできますが、全てがなくなると、無為怠惰の日々を送ることになりかねません。高齢者になつても、この「生の欲望」を持つことが「生きる力」になると言われています。振り返れば、若い時の「生の欲望」が強ければ強いほど苦しい面も生じますが、反面、生きている充実感とか達成感を味わえることもありました。

世の中には、一般人と違い、歳を取つても生の欲望が若い時以上に強く、持續して、地位と権力、金、女に固執している御老人がいます。本人は意識をしていないのか、こんな御老人が会社、組織、社会を腐敗させ、悪影響を与え、老害と言われる難儀な事態になることもありま

思いつくのは、現役の時から数々の失言を發し、引退してからもコロナ禍での東京オリンピックを推進し、利権がらみで多くの無駄な工事発注に影響力を發揮し、合法的に? バックマージンを得たり、女性がいたら会議が長くなるなど、女性軽視発言したりした、森喜朗87歳。フジテレビで40年の長きわたり、人事権を握り支配欲、権勢欲を發揮して、「中居ちゃんの女性問題」を助長して? 組織を腐敗させ、自分だけは逃げ切った日枝久。奇しくも87歳。地元和歌山には多大なインフラ事業を行つたが、日中友好議員連盟会長として、中国との関係を自分の名誉欲の友好? ただで終わつてしまった、又、幹事長時代に使途不明の約50億6000万円の政策活動費を使いまくる権勢欲を發揮し、自分だけエエ目をして、ご老体で引退して、息子を跡継ぎにしようとしたが果たせなかつた二階俊博86歳、等々のお偉方です。

普通は歳を取れば取るほど、過度な生の欲望を抑え「我ただ足るを知る」境地になつていき、適度な「生の欲望」を持續しながら、生が尽きるまで生きて往くのが高齢者のあるべき生き方だと思います。

それは、のんびり、ゆったり、ほどほどに生きること、世の中、自然がよく見えて、感じ、味わえるのでは、「沈黙黙考」ではなく「手考足思」ですか。高齢者は、特に男はどうしても人の話を聞く

ことよりも、人にあれこれ自分のことを喋りたがる。それも人が喋っているのを遮り、自分の自慢話をしたがる、これは、気を付けたいものであります。喋るよりも人の話をよく聞く力をつけたいものです。その方が聞くことで自分の知らない世界が広がり、脳の前頭葉に刺激を与え、ボケ防止に繋がるのではないかと思います。身近なところから妻の苦情、不満などの話も共感的によく聞くことで、相手も穏やかになり、自分もボケ防止に繋がるとならば、これは、無理をせずとも行えるのではと考えている次第です。

オクラの山たより(103)

困了生

一

一八九二(明治二十五)年三月二十七日「武蔵野」第一編に發表されました。この作品の評が「改進」「朝日」等の新聞に掲載されましたが、ごくおさなりの評で「燈(ひ)」ともし頃を散る恋の心とあはれなり(東京朝日)程度のものであり、批評は半井桃水等のすでに作家として活躍していた人に集中していて特に一葉に注目したものはありませんでし

た。当時の文学界では「武蔵野」は戯作者崩れの大衆作家の余技くらいに考えられていたため「武蔵野」は注目されることもなくほとんど売れず創刊して半年もたらずして第三編で終刊となりました。

プロの作家としてデビューした一葉でしたが、この「武蔵野」の第一編から第三編までには「闇桜」「たま櫛」「五月雨」と続けて一葉は作品を発表しています。一葉が原稿料として受け取ったのは、桃水のポケットマネーからおそらく出た十五円（現在の三十万円ほど）だけでした。樋口家の家計を案じてのことでしょうが、桃水は改進黨新聞に一葉を推薦し彼女は「別れ霜」を連載しています。これはいわゆる絵入り小説で、大衆読み物扱いされていたため、一葉は作者名を浅香ぬま子と名を変えて載せています。一葉の妹である樋口邦子が書き残した一葉年譜覚え書きともいえる「かきあつめ」には「武蔵野」の発刊のいきさつとともに次のように書かれています。

廿五年二月はじめ、半井君（きみ）ほつきにて研究の為に二、三の人とばかり、武蔵野といふ雑誌を発兌（はつだ）せられ姉も筆とりしなり。
三月末つかたより改進黨新聞にあやしきものを出す。

右の文中に「あやしきもの」というのは先ほども述べたように当時において新聞

の絵入小説とは、戯作者の「続き物」と同じ扱いとされた娯楽物で、文壇においても一段低いものとみなされていたからです。同じように新聞に連載された小説でも幸田露伴の「五重塔」は絵入小説とはされず、高級な小説であるとされていました。このこともあって一葉はすでに「闇桜」で一葉というペンネームを使っていたにもかかわらず、筆名を浅香ぬま子と名を変えたのでしょうか。

家計のことを考えれば半井が指導する通り読者の嗜好に迎合して書いた方がいいのでしょうか。しかし、一葉の思いは違っていました。

一八九一（明治二十四）年の暮れ、一葉は自分の文筆活動を振り返って随筆「森のした草 一」に以下のように書いています。拙訳ですが現代語訳で示します。

私が思うに価値のない戯作であつても、私がこうして書くことは真実である。衣食のため、雨露をしのぐためという言い訳をしてみても、まずいものは誰が見てもまずいものに見えるだろう。私がこうして筆をとるからには、一読して捨てられるようなものは決して書きたくない。今の世は人情に薄く、今日喜ばれていても明日には捨てられるものだから、真心に訴え真心を移すならば、たとえ一枚のつまらない作とは

いえ、私は豪華な服や立派な家を望んではない。ただ、一〇〇〇年の後までも残そうとしている名前をどうして一時の栄誉のために汚すことができましようか。

小説家をめざしたのは女性でも金を稼げるからであり、もともと父亡き後「衣食の為」「雨露しのぐ為の業」であつたはずでした。しかし、一葉の心の中では徐々にではありますが並々ならぬ決意が固まりつつありました。目指すは「一〇〇〇年の後」までも残る名前であり、そのためには「今日喜ばれていても明日には捨てられる」世の人々の好みに迎合するようなことはしてはならない、と。これは小説の師匠である半井桃水の教えに背くものでした。桃水は自分が小説を書く際に心がけているのはあくまでも読者の幼稚な文学観に合わせるのだと言っていました。しかし、一葉は読者に迎合したものを書いてすぐに読み捨てられるのは嫌だとはつきり書いています。

習作のような小説作品を書きだしてすでに1年余り。萩の舎の同門である田辺花圃が苦もなく書いたような小説でも三十円ほどは手に入るのが小説家という気楽な稼業だと考えていたのは大間違いであつたのだということに一葉はそろそろ気づき始めていたのです。そのうえ師匠の桃水ですら新聞の小説記者でも裕福というわけでもなく、多額の借金を抱え

ているということもうすうす分かってきました。ここで一葉は考えたのでしょうか。どうせ儲からないのであれば、低レベルの読者に合わせて作品を書くのではなく、後代まで名を残せるような作品をのしたい、と。読者に迎合して書かれていた桃水の作品は後世に残ることはないが、自分がこれまでに学んできた「古今集」「源氏物語」といった古典は千年を超えて残っているではないか。そういった作品を自分は書きたい。常人には思いつかぬ大きな自負を、かなり以前から一葉は心の中に持っていたのです。このあたりのことを少し後の日記にこう記しています。

九つばかりの時よりは、我が身の一生の世の常にて終らむことなげかはしく、「あはれくれ竹の一ふし抜け出でしがな」とぞ、明け暮れに願ひける。

「塵之中」明治二六年八月十日

右のように桃水の教えからは一定の距離をとっていた一葉ですが、若い女性として桃水に寄せる思いはまた別でした。一葉は桃水に淡い恋心を抱いていたのです。

て一八六〇（万延元）年に生まれ、十一歳の時に上京し、「大阪朝日新聞」の特派員を経て小説担当記者として「東京朝日新聞」に入社しました。「小町奴」「業平竹」などを発表し、当時、大衆小説家として有名でした。

すでに述べたように試作の小説を携えて初めて半井桃水の家を訪れたのは一八九一（明治二十四）年四月十五日のことでした。今に残る写真で見ても半井桃水はなかなかの美丈夫です。「色いと白くて面ておだやかに少し笑み給へるさま誠に三才の童子もなつくべくこそ覚ゆれ」と、その日の日記に書いています。

その後、一葉はせっせと小説の試作をもつて桃水の家を訪ねます。そのたびごとに一葉は桃水の容姿と人柄に惹かれていきます。

桃水の家に通い始めて八か月後の一八九二（明治二十五）年二月四日、雪が降った日、この日は一葉にとって忘れられぬ日となりました。後に一葉は日記に何度も「かの雪の日」と記し、桃水との恋ともいえぬ淡い恋の思い出を反芻しています。この日のことを記した日記の記事は一葉の日記の中でも大変有名な一節であり、短い私小説のような趣のある内容です。長くなりますが要約して以下に述べてみます。

日記は「早朝より空模様悪く、『雪になるべし』などみないふ。十時ころより雲まじりに雨降り出づ。晴れてはふりふ

り昼にもなりぬ。『よし、雪ならばなれなじかはいとふべき』とて、家を出ず」と一葉は書き始めます。やがて雨は雪に変わり、桃水の家に着いたのは十二時過ぎでした。

訪れたものの誰かいる気配はありません。留守かと思いがちにしばらく腰かけて待つことにしました。

「雪はただ投ぐる様にふるに風さへそひて格子の隙より吹き入るる寒さもさむし」

寒さに耐えかね一葉は障子を少し開けて二畳間に上がります。唐紙一枚の向こうは桃水の居間です。いびきの声がかすかに聞こえてくるので桃水は寝ているようでした。来訪してからすでに一時間。心細くなつて一葉は咳などをしてみると、それを聞きつけたのか桃水は起き出して来ました。「どうして起こしてくれなかったのか。遠慮しすぎだよ」と彼は大笑いしながら雨戸を開けます。桃水は一葉を迎え入れるためにバタバタと忙しく立ち振る舞います。その様子を一葉は細かに書き記しています。

「枕元に歌舞伎座番付さては取り散らしあるに紋付糸織の小袖など床の間の釘につるしあるなど、ろうがわしさ（散らかしよう）も又極まれり」

片付けが終わったところで「武蔵野」の話が出ます。そして、最初の一回、二回は原稿料を出せないが、少し売れるようになったら払うようにします、と彼は言いました。一葉からは「闇桜」の原稿を持参したことを伝えます。そんな話をするうちに桃水は隣の家へ鍋を借りに行きました。

「とし若き女房の、『半井様、お客様か。お楽しみなるべし。おうらやましう』、など言ふ声、垣根一重のあなたなれば、いと聞こゆ。『いや別して楽しみにもあらず』、など言ふはうしなり。『先頃仰せられし、あのお方か』と問はれて『さなり』といひたるまま、駆け出して帰り来たまへり。

戸外から聞こえてくる「お楽しみなるべし。おうらやましう」とか「あのお方か」とかいふ隣の若女房が桃水を冷やかす声を一葉はどんな気持ちで聞いていたか、想像がふくらみます。「雪が降らなかつたら、うんとごちそうするはずだったんですが……」と桃水はお汁粉を作つて一葉に振舞います。やがて時が来て一葉がおいとましようすると桃水は一葉を動転させるような言葉を口にします。

「雪いや降りに降るを、今宵は電報を発して、ここに一宿したまへ。…」

：おのれは小田（友人の家）へ行き、泊まりてこむ。君一人ここに泊まりたまうふに、何のことかはあるべき」

この言葉にあわてて、そんなことをしたら母親に叱られますと断つて人力車に乗って帰る一葉。すでに外は「白交がいがいたる（二度真つ白なさま）雪中りりんたる（ひどく寒いさま）寒気」が身に迫ってくる中、一葉は家へと急ぎます。

以上の「雪の日」の記述から一葉の恋に我々が過剰な思い入れをすることは危険です。「雪の日」のことが記された二月四日の日記はこう結ばれています。

「堀端通り九段のあたり吹きかくる雪に面も向けがたくて頭巾の上に肩掛けすっぽりとかぶりて折ふし目ばかり差し出すもをかし。種々の感情むねに迫りて雪の日といふ小説一篇編まばやの腹稿成る」

帰り道で一葉の心に生じた「種々の感情」は桃水への熱烈な恋心ではなく、「雪の日といふ小説」を書くという思いへと収斂しています。自らの感情も対象化してそれを作品として成文化することに収斂させています。家路を急ぐ人力車の中にいたのは自分にとって大変に大事な日の記憶の終わりにあつてなお「小説一篇編まばや」と考える作家なのでした。

「雪の日」の日記の記述に限りませんが、一葉は日記を書く際に多少の脚色や創作を加えていたというのは研究者の意見の一致するところです。ですから「雪の日」のこともすべて真実とは考えられません。特にこの日のことについては、一日に体験したことや目にしたことを何度も反芻して、いわば一つの作品に仕上げていったように見えます。その証拠というわけではありませんが、次のような桃水の証言があります。

領だ

右の通り、一葉と桃水の話はずいぶんと違いがあります。どちらのいつていることが真実かはもはや誰にも分かりません。しかし、一葉にとってこの雪の日は、桃水との思い出の中でも最も大切な日の記憶となっていたことは間違いありません。襖一枚へだてた隣の部屋で寝ている桃水をじっと何時間も待っていた一葉。外は大雪、家の中は男女二人きり。この時間の中で一葉の心の中に桃水への思いが意識されても不思議はないと思われる。

とはいえ桃水への一葉の思いの高まりはこの日が最高点であったと考えられます。なぜなら二月四日からわずか三カ月後に一葉から桃水に絶縁を申し入れているからです。若い女性が三十歳をこえた男性のところに通うことが一葉の周辺の人々の間でスキヤンダルと噂されるようになっていたからです。

四

半井桃水についての悪い噂はすでに前年の一八九一（明治二十四）年九月二十六日には一葉の耳に入っていました。その「噂」をもたらししたのは、もともと桃水と一葉を引き合わせた野々宮菊子です。彼女が一葉の妹邦子に話した桃水の噂話の内容は、一葉が桃水に指導を受け

るようになった頃から半井家に同居していた福井県出身の鶴田たみ子という女性に関わる話でした。たみ子は桃水の妹幸子の学友で半井家に寄宿して高等女学校に通っていましたが、七月に女兒を出産していました。菊子は邦子に、その父親は桃水ではないか、と告げていたのです。この話を聞いた一葉はさっそく事の真相を問う手紙を桃水に出し、直接に彼から釈明を聞くべく彼の家に出かけます。この日の一葉の様子は日記に次のように書かれています。

「（桃水の書斎に入ると）おのれは例（いつも）の近眼（ちかめ）にて、えよくも見えねど、何ならん景色の写真額ありけり。君と我とは長火桶ひとつ隔てて相對座しぬ。例のにこやかに打ち笑みつつ『ここへ寄り給へ』などの給ふ。七歳にして席を同じうせざるなん行ひ難かる業（わざ）ながら、『かうも人氣なき所に後ろめたうもあることよ』と思ふに、冷ややかなる汗の流るる心地す」

一葉の複雑なときめきと緊張感が伝わってくる記述です。この後に書かれた内容によると鶴田たみ子の相手は桃水の弟の浩であり、そのことは詳しく野々宮菊子に話しておいたと語ったといえます。なぜ菊子が桃水の話をやがめて伝えたのかは不明ですが、すでに菊子から「噂」を

聞いていた一葉は桃水の話ぶりを「笹原走る御心なめりかし（「身に後ろめたいことがあると、つまらないことでもびくびくする御心のようにすよ」の意）」と感じて、彼の言つてことを言い訳がましくいと聞こえたようで、彼女は死ぬまでの噂を信じていました。

蛇足ながら引用した文中に「例の近眼」とありますが、妹の邦子によれば、一葉はひどい近眼で誰の顔も本当に知っているといることはなく、大概は相手の様子で察して、これは誰々というような状態であつたそうです。だから、桃水が美男子であつたから一葉が恋したという人もいるが、姉の一葉には桃水が本当に美しい男性かどうかを見る目はなかったようだと邦子は言っています。この時期の一葉は長兄の死、父の死、次兄の「勘当」と続き、さらには許嫁であつた渋谷三郎の離反、急速に進む家計の貧窮化。悲鳴を上げたいような心情の中で相手に心の負担を与えない桃水との出会い。邦子のいう通りとすれば一葉は彼の優しさに惹かれていったと想像できます。

それはともかく、この時はそれで終わり一葉は「噂」を胸にしまい込んで桃水から小説の指導を受け、交際を続けていきます。

翌年の六月七日、一葉は桃水の家を訪れます。彼女はこの時まで「武蔵野」に「闇桜」「たま櫛」を発表し、改進黨に「別れ霜」を連載しています。桃水

はこれから一葉の進んでいくと予想される道が自分の力の及ぶ範囲にはないことを悟っていたのでしょうか、桃水は次のように語ります。

「（あなたは）とうてい絵入りの新聞などには向き難くや侍らん。さるつてをやうやう見つけて尾崎紅葉に君を引き合わせんとす。彼によりて『読売』などにも筆をとられなば、とく（「得なこと」の意、多かるべし。又、月々にきめての収入なくは経済のことなど心配多からんとて、これをもよくよはらんとす」

当時、幸田露伴と並んで第一級の文学者であるとされた尾崎紅葉に紹介してくれ、しかも樋口家の経済のことも心配してくれている桃水。嬉しさでいっぱいの一葉はこの日の日記に「かたじけなし」と記しました。

しかし、この紅葉との出会いを果たさずには終わります。原因は一葉が桃水との絶縁を決意したことにありました。

五

桃水とは絶縁することを決定づけたのは萩の舎の人々でした。

萩の舎の主宰者である中島歌子の母親中島幾子が六月に三日に亡くなり、十二日に法事がありその席に中島歌子をはじめ

めとして、萩の舎の門下生たちが大勢集まりました。すでにこの頃までには一葉と桃水の間には萩の舎に関わる人達には知れ渡っていました。もともと桃水に関しては悪い評判ばかりを聞いていた一葉の友人であった伊東夏子は一葉の評判までもが悪くなっていくことに耐えられず「一葉と桃水との仲が萩の舎中で噂になっている。家名を重んずるなら桃水との交際は断つべきだ」と強い言葉で忠告しました。

友人の伊東夏子からそう言われると一葉は舎中の誰もかれもが自分をそういう目で見ているような気になり、二日後に一葉は思い切って中島歌子に相談します。「自分と桃水とのことは、自分から願うての交際ではなく家のため、自分が世を渡るために取る「筆の力」をつけるためであり、他のことには何の思いもありません」と一葉が言うと言子の返事は一葉を仰天させるものでした。

「その半井といふ人とそもじ（「あなた」の意、いまだ行く末の約束など契りたるには無きや）」

さらに、続けて歌子は言います。「桃水は一葉を自分の妻だと言いつらしており、萩の舎では女中までもがその噂を知っている」と。さらには「もし全くその事（結婚すること）なきならば、交際せぬ方宜（よろ）しかるべし」と桃水との別れ

を歌子は勧めました。

これを聞いた直後の気持ちを一葉は「我いささかもさる心（結婚する気持ち）あらず」と書き「師の君（中島歌子のこと）まで正（まじ）なき事の給ふかなと口惜しまでに打ち恨めば」と日記に書いています。

時代は明治です。そして士族の娘として誇り高く生きてきた彼女にとつてこれは実に不名誉な噂でした。

しかし、近所の「噂」であれば時間がたてば収まっていけます。しかし、良家の子女がばかりが集まる萩の舎で未婚の一葉がやめ男との関係を疑われるということは単なる口さがない噂では収まらず、そこから追いつかれることをも覚悟しなければなりません。この時、借金に借金を重ねる状態となっていた樋口家の戸主たる一葉には生活の資を得る道は萩の舎しかなく、デビューしたとはいえ、作家として食べていける見通しはまだありません。そのため歌子をはじめとして萩の舎の人々から針仕事を生活のために多くもらっていました。母親と妹を路頭に迷わせないためにも、萩の舎での居場所は何としても確保しなければなりません。それはプライドの高い一葉にとつては屈辱的なことでしたが、その一方、和歌では一目置かれ、師である歌子の代わりに指導しているという自尊心・プライドで心のバランスをとっていました。今、萩の舎から追い出されるような

ことがあれば経済的にも精神的にも、すべてがだめになります。こうなると半井桃水とは絶縁する他に選択肢はない。一葉は六月二十二日に桃水の家に完全なる絶交を申し入れます。日記には次のように自分は語ったと一葉は記しています。

「我がかく常に参り通ふこといかにしてもれけん。親しき友などいへば更に師の耳にもいつしか入りて疑はる……我れ君のもとに参り通ふ限りは人の口ふさぐこと難かるべし。よりて今しばしのほどは御目にもかからじ、御声も聞かじとぞ思ふ」

これに対して桃水は「このような事を言われるであろうとはかねて覚悟していたことです」と言い「私はあなたにとつてよいようにと思つてあれこれとしてきました。あなたとつて一番都合がよいようになさることが私の願いです。今からはできる限り我が家においてなさらぬようにしてください」と言つてと一葉は日記に書いています。大人の対応というべきでしょう。この桃水の優しい言葉一つ一つに「哀れに悲しく涙さへこぼれぬ」とこの日の日記に一葉は書いています。彼女の二十歳の淡い恋は、そしてそれは彼女にとつて最初で最後の恋といえるものでしたが、自らピリオドを打つ形で終わりを告げました。

なお、一葉研究者の関礼子氏がこの一

葉の決断について「一葉に桃水との関係を断念させた萩の舍での桃水問題の醜聞化なども見方を変えれば、女性の表現者共同体による、男性閲覧者桃水の排斥という面を持つ」つまり「一葉が最も失うことを恐れ、桃水への義理や情を犠牲にしてまでも守らなければならないと思ったのは、このような女性表現者の一人としての矜持でありアイデンティティであった」（「語る女たちの時代」新曜社 1997年刊）という興味深い指摘をしています。男性の立場から一葉の小説に指導を加えた桃水と、女性表現者の集団であった萩の舍での創造活動を軸とする対立関係が無意識のうちに二人を取り巻く噂の背後にはあったかもしれません。

ともかくも桃水か、萩の舍か、どちらをとるか。一葉が選んだのは萩の舍でした。

半井桃水と絶縁した一葉は尾崎紅葉に会うというチャンスもなくなりましたが、別の道も開かれました。作品発表のつてを失った一葉が頼ったのは萩の舍の門下生で先輩作家の三宅（旧姓田辺）花圃でした。「藪の鶯」刊行以降、花圃は雑誌「都の花」などに作品を発表しており、後輩の一葉のために紹介の労をとってくれました。この雑誌「都の花」に一葉は明治二十五年十一月に「うもれ木」を発表し、この作品に注目したのが「文学界」同人の星野天知、平田禿木でした。

彼らを通じて「文学界」に集う馬場孤蝶・戸川秋骨・上田敏・島崎藤村といった多くの人々と出会い、それが有名な「たけくらべ」の発表につながっていきました。そうしたことでいえば、この時点で花圃のはたした役割は大きかったといえます。

隠された歴史（78）

満田 正賢

前回より、船王後墓誌に記された三人の天皇について考察しています。船王後墓誌は、大阪府柏原市の松岳山（まつかやま）古墳群から出土した船首王後（ふなのおびとおう）の墓誌で、戊辰年（天智七年・六六八）に作られたと記されているものです。そこには、平娑陀（おさだ）宮治天下天皇、等由羅（とゆら）宮治天下天皇、阿須迦（あすか）宮治天下天皇、という三人の天皇名が記載されています。そしてそれは敏達、推古、舒明という三人の天皇が実在していた証拠とされています。船王後墓誌の原文については先月号を参照して下さい。

今回はまず、船王後墓誌が作成された

戊辰年は天智三年（六六八）ではなくもつと後代であるとした東野治之氏の説を論拠に、船首王後の墓誌が船氏一族によって、架空の日本書紀の世界（架空の天皇）を現実化する手段として作られたとした山崎仁礼男氏の説を紹介し、三人の天皇名が日本書紀の漢字表記と異なっており、船氏一族の名前も日本書紀の記述と異なるという理由でそれを否定しました。

船王後墓誌が作成された戊辰年は後代であるとした東野治之氏の説については、「東野氏が根拠とする闕字の使用については、養老令の闕字は厳格に天皇及び皇太子に関係する所に限定されているが、ここでは船氏一族の名前にも闕字が使われており、中国・朝鮮半島で行われていた貴人に対する闕字と見るべき」当時は大仁を官位（官職の等級）としていないという根拠については、隋書倭国伝には『内官十二等有り、一に曰く大徳、次に少徳、次に大仁』とあり、同時代史料によつて否定される」という服部静尚氏の反論を紹介しました。

次に、船王後墓誌には日本書紀の記述とは全く異なる人名が描かれており、ここに現れる三人の天皇は近畿王朝のものではなく九州王朝の王であるという服部氏自身の説を紹介し、船王後墓誌は、大阪府柏原市の松岳山（まつかやま）古墳群から出土したと伝えられており、九州王朝に話を飛ばす前に、近畿に日本書

紀と違う歴史があった可能性を探るべきとしてそれも否定しました。

そして、三人の「天皇」の考察に入る前に、「天皇」という称号がいつ使われるようになったかという問題についての仮説を提起しました。それは次のようなものです。

隋の皇帝煬帝が、「日出処の天子書を日没する処の天子に致す」という倭国王の書面に腹を立てて「倭国王に天子という称号を使わずな」と臣下である鴻臚卿に命令した（隋書）。そして鴻臚卿の命を受けた鴻臚寺の掌客・裴世清が、来朝時に倭国王に「天子」ではなく「天皇」という称号を使うように勧めた結果、返書は「東の天皇が謹んで西の皇帝に申し述べます」（日本書紀）という表現に変更された。そしてその十二年後に、蘇我馬子と聖徳太子によつて『天皇記』および『国記』が編纂され、この時に近畿王朝の歴代の王は初めて「天皇」という呼称で記された。

このような考察をふまえて、船王後墓誌に出てくる三人の天皇に迫ります。

一、平娑陀宮治天下天皇

「平娑陀宮」は「おさだのみや」を代表的な漢字表記で表したものです。敏達天皇の宮については、日本書紀では「百済

の大井に宮を作った。・・・四年ついに宮を詔語田（おさだ）に営んだ。これを幸玉（さきたま）の宮という」、古事記では「他田（おさだ）宮」、扶桑略記では「大和国十市郡磐余詔語田宮（いわよおさだのみや）」にいう百済大井宮またいう城上郡幸玉宮」、先代旧事本紀では、「四年ついに宮を詔語田の幸玉宮に営んだ」と記述しています。「おさだのみや」を敏達天皇の宮と関連付けるのは極めて自然です。敏達天皇は蘇我馬子が「天皇記」によつて後付けした天皇と私は考えていますが、天智期には近畿の中で、すでに事実として刷り込まれていたことが想定できます。

二、等由羅宮治天下天皇
「等由羅宮」も「とゆらのみや」を代表的な漢字表記で表したものです。推古天皇の宮については、日本書紀が「豊浦（とゆら）宮」、古事記が「小治田（おはりだ）宮」、扶桑略記が「都大和高市郡小治田宮一云豊浦宮」先代旧事本紀が「皇后即天皇位於豊浦宮」と記述しており、推古天皇の宮を指している可能性が高いと思われます。

なお、林順治氏は蘇我王朝三代（馬子―蝦夷―入鹿）説を唱えており、『古代七つの金石文』（彩流社）において、『平婆陀天皇』は敏達、『等由羅天皇』は蘇我馬子、『阿須迦天皇』は蘇我蝦夷と考えればつじつまが合う」と主張し

ています。林氏の説は、蘇我馬子が近畿王朝（欽明王朝）の実権を握って対外的には倭国王と名のついていたと考える私の説と類似していますが、私は敏達天皇、推古天皇までは蘇我馬子が『天皇記』において「天皇」と記していると考えます。

その根拠は『隋書倭（倭）国伝』において倭（倭）王の使者が「倭（倭）王は天を兄とし、日を弟として、天がまだ明けない時に出て政務を聴き、踟蹰して坐っています。日が出ると事務処理をやめ、我が弟に委ねようといひます」と説明していることです。

私は、「隠された歴史（23）」において、古事記では、欽明天皇が糠子郎女（ぬかごのいらつめ）に産ませた子の中に「宗賀（そが）之倉王」が含まれていることに注目しました。この「宗賀之倉王」は、日本書紀においては、宣化紀には現れず創作されたと思われる宣化天皇の娘、日影皇女の生んだ皇子「倉皇子」に置換えられています。私は、日本書紀によって抹殺された「宗賀之倉王」が、蘇我氏に養子に出された皇子ではないかと推測しました。それは、欽明天皇が蘇我稲目に自分の皇子を養子として与えたことを暗示しており、即ち蘇我馬子と推古天皇が兄妹の関係になることを示しています。その真偽は別にして、蘇我馬子の使者は日中の政治は弟（当時は妹も弟と称していた）に任せられていると隋の煬帝に説

明したと一致します。すなわち、隋の皇帝に対しては蘇我馬子が自らを「日出処の天子」と名のりましたが、蘇我馬子がつくった『天皇記』においては、国内向けに「天皇」の系図を作り、天皇は推古としたのではないかと考えます。

三、阿須迦宮治天下天皇

古事記も先代旧事本紀も天皇の記述は推古で終わっています。これは両書とも推古二十八年に蘇我馬子と聖德太子が編纂したと日本書紀に記されている「天皇記及國記、臣連伴造國造百八十部并公民等本記」を基に作成されたことを示唆していると考えます。舒明天皇の宮は、日本書紀では「飛鳥岡本宮」であり、扶桑略記では、「都大和高市郡岡本宮・・・二年遷都於飛鳥岡本宮」とあります。日本書紀に記された舒明天皇の宮は「おかもとのみや」と称される方が自然ですが、「あすかのみや」と称されていた可能性は否定できません。しかし、船王後墓誌の記述はあきらかに日本書紀の漢字表記を無視しています。問題は日本書紀の記述が真の近畿の姿を記したものでしょうかです。

前述の林順治氏は蘇我王朝三代（馬子―蝦夷―入鹿）説によつて『阿須迦天皇』は蘇我蝦夷であるとししました。私も推古の死後近畿王朝（欽明王朝）の王位は蘇我氏が直接握り、その権力を打倒した戦いが六四五年の乙巳の変（大化の改新）

だったという見方をしています。しかし蘇我蝦夷が天皇であつたとする林氏の説には疑問を持ちます。蘇我馬子は欽明天皇の子ではありますが、蘇我に養子としてもらわれた自分を天皇とは名乗らず、自分は法王としてふるまい、天皇名は推古に与えたと考えます。従つて林氏の蘇我王朝三代説には私は与しません。
「舒明紀、皇極紀は架空の話であり、実際には推古天皇の崩御後に蘇我氏が天皇然としてふるまった」と想定すると、「阿須迦天皇」は蘇我蝦夷よりもむしろ、政権打倒のターゲットとなつた蘇我入鹿である可能性が高いと考えます。

なお、船王後の没年は辛丑六四一年、舒明天皇の没年も日本書紀によれば六四一年です。蘇我蝦夷も蘇我入鹿も没年は乙巳六四五年であり四年の差があります。服部静尚氏は「末」を末期の数年間と考えていますが、私もこの服部氏の説に従いたいと思います。

なお、『治天下』する拠点となる宮の遺跡が大和にはない」とする服部氏の根拠について考えてみます。

私は「隠された歴史（22）（23）」において、継体・安閑・宣化の後を継いだのは、古事記に宣化の嫡子と記されている「倉之若江王」であり、この倉之若江王が「倭王」を引き継ぎ、那津官家に遷都して後期九州王朝を建てたという仮説を立てました。また、「隠された歴史（7

俳句

影山 武司

5) (76) において、日本書紀の欽明紀の記述に従えば、欽明が近畿の王として権力を持ち始めるのは、欽明末期、高句麗との交流の話からであると考察しました。

従って、当時、倭国王として倭国(日本)全体を統治していたのは後期九州王朝の王であると考えます。蘇我馬子が『天皇記』の中で創作した近畿王朝(欽明王朝)は、実質的には倭国王に反発して近畿、又は近畿の中の数か国で覇権をとっていた集団であつたと考えます。そして、近畿王朝(欽明王朝)は律令制を敷いていませんでした。単なる一地方の豪族集団であれば大きな宮は必要ありません。又、隋書の記述によって推測しますと、大和飛鳥は政権の「奥の院」であり、実際の政権運営は難波(上町台地)で行われていた可能性もあります。飛鳥に作られた多くの「寺」が、その中で多くの人々が暮らす「役所」機能を併せ持っていた可能性もあります。

従って、『治天下』する拠点となる宮の遺跡が大和にはないことを根拠に「近畿にいた三人の天皇」を否定することは出来ないと考えます。

釣り糸の水面に揺れて風光る

化学式並ぶ教科書地虫出づ

春動く蒲団に大き「世界地図」

エチユードの半音階や朧の夜

目玉焼きの黄身のとりりと春の朝

後悔は何にもならず蜷の道

金管の大きスウィング謝肉祭

永き日の写経の枅目数へをり

春の昼鳩の降り立つ丸時計

ハーレーのエンジン響き山笑ふ

編集後記

SK生

▲今回は「哲学爺いの時事放談」が休載となった。時事にふれ、その思想的な背景を分かりやすく語る筆者の文章がない

のは残念であるが、次号での筆者との再会を期待したい。▲「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにする大阪万博

が始まった。ウクライナ、ガザ、ミャンマーと世界のあちこちで今も続く戦争。

確実に進んでいるとしか見えない地球環境破壊。これらのことを考えると、浮か

れる気分にはとてもなれない。おまけに足元では相変わらずの物価高だ。かつて

* 十三ページからの続きです。

秀1/「水になれ、友よ!」とブルース・

リ。丸くなる四角にもなる水のまま、方

円に従う水にある不屈。

秀2/前田伍健の「考えを直せばふつと

出る笑い」だ。

秀3/太陽の全放射エネルギーの1億

分の1が地球に届く。地上で一平米五百ワ

ットの日の光は、炎暑も日向ぼっこも呉れ

る。

【追記】今回の雑詠の部の特選句「魔女だ

とは知らずに好きになりました」は、二か

月後に発表される読者が選ぶ『誌上句会大

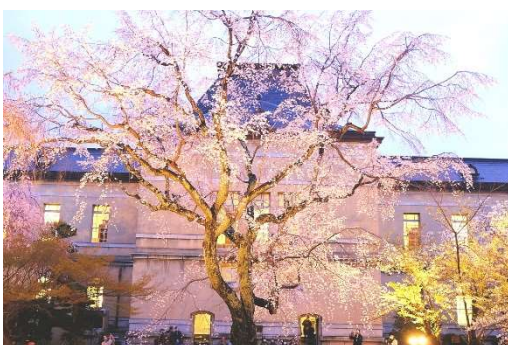
賞』に選ばれた。前々回の雑詠の部の特選

句『銭形の平次の銭は公金か』の大賞受賞

に続く二回目。選者にとってもうれしい事

だった。

「こんにちは、こんにちは、世界の国から…」と三波春夫が歌っていたような雰囲気は一部を除いて、この国のどこにもない。▲もうすぐ酷暑の時期となる。そして「もうすぐ来るぞ!」と言われ続けている地震。万博の初日に雨宿りの場所が少ないといわれた会場だ。四十度近い炎天下で長時間も並ぶかもしれない入場者の健康は大丈夫か。地震による津波はどうか、数十万人の入場者の命を守るのか。そしてメタンガスは……。気になることは尽きない。一部の記者を締め出して報道規制をしているような万博協会に十全な信頼を置きそうもない。それは政府に対する不信にもつながる。▲願わくば政治をつかさどる人たちは万博に踊ることなく現在の状態を冷静に俯瞰して、庶民がともに喜ばしき顔を見合わせるような世にしていだきたいものだ。一庶民のささやかな願いである。



京都府庁・桜ライトアップ

応募川柳誌上句会の選評④

川柳を詠むとき、大きく二つの詠み方がある。俳句や短歌にも共通することである。

一つは課題吟と言われ、大会や句会の主催者から示された課題(宿題)に沿って句を詠む場合である。課題は名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞などの言葉で与えられる。課題吟を詠むとき、特に指示が無ければ、課題の言葉は句に詠み込んでも詠み込まなくてもいい。また、絵や写真などを課題として示すこともあり、この場合は特に「イメージ吟」と称することもある。

もう一つは、作者が詠みたいことを詠む自由吟である。題材は自由に作者が選ぶ。近況を詠むという意味で近詠と呼ばれることもあり、また作者ごとに題材が種々雑多となるので雑詠と称することもある。

私は課題吟が苦手である。いや、嫌いである。宿題か試験にでも追いかけれ急かされる思いがする。私が川柳をするのは、自分の思いを自由に表現したいからである。何で他人が決めた枠の中で自らを表現しなければならないのか。腹立たしい気がする。

しかし世間(川柳界のこと)ではそうではないのだ。あるとき川柳の懇親会でそんな思いを話したら、隣の人が驚いたように、「えっ！ お題がなかったらどうやって句を作るんですか？」と言われこちらがびっくりした。「日記でも書くように自分の思いを書くんじゃないですか」と言ってはみたが。

ただ、誤解のないようにつけ加えておきたい。一つは、課題吟の選をするとき、あるいは入選句の発表(披露という)を聴くときにいつも思うのは、この題でこんなに多様な心打つ句がどうしてこんなにたくさん生まれるのかという驚きである。そのとき、私は優れた自由吟に出会っている気がする。そして、自分は詠むのは下手だが、よく読むことはできるのだと思うことにしている。課題吟も、一句独立して鑑賞できる句でなければならぬ、ということがよくわかる。

もう一つ。俳句の誕生もそうだろうが、川柳で課題吟が詠まれることには歴史的な背景がある。五七五七七・三十一文字の和歌は古くからあったが、やがてそれを一人が詠むのではなく、五七五と七七とに分けて別の人がつないでいく連歌が起った。連歌の第一句五七五を発句というが、これが俳句の元。他方で、やがて七七の十四音字を前句として示

し、それに五七五を付けて(前句付という)五七五七七を完成させることが広く募集されるようになった。例えば、前句「賑やかなこと賑やかなこと」に対する前句付で名作として残っているものに、
降る雪の白さを見せぬ日本橋
がある。日本橋は人の往来が絶えぬということ。また、「切りたくもあり切りたくもなし」の前句付としては、
盗人をとらえてみれば我が子なり
が有名。こうした例でいうところの前句が、いま言うところの課題であり、前句付という付句が独立して一句意味を成す川柳になっていったと言えるだろう。

秀1／核兵器禁止を訴え続けた日本被団協がノーベル平和賞を受賞。世紀が逆戻りしたような世界に釘を刺した。
秀2／軍事力による平和は形容矛盾。九条が歯止めの釘にならぬ国、になるのか。
秀3／昭和88年『放送開始。遠くまで見に行き釘付けになったが、「総白痴」にはならなかった。さしずめ今はみなスマホに釘付け。

○雑詠の部
特選
魔女だとは知らずに好きになりました
隆

○課題「釘」の部
特選

道決めて運命線に五寸釘 時雨
秀句

核禁の釘を世界に被団協 秀高
九条が軍事国家へ釘を打つ 茂
釘づけになってテレビを見た昭和 かつば堂

【選評】

特選／「こつこつの道を自分で行くと決め、自ら五寸釘を打った。

秀句
水は水なりに哲学持っている 竹里
限りなくわたしを癒す まあいいか 弘子
太陽を恨んだ顔が恋しがり 重治

【選評】
特選／「人は知らないものを深く愛することができる。しかし、愛さないものを深く知ることはできない」と哲学者の言。恋愛もそうだなあ。

* 以下の文章は十二ページの下段に続きます。